都道府県番号	２６
都道府県名	京都府

【　①□　②■　③□　】
＊ 重点をおいた観点にチェックすること

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	野田川町立市場小学校								
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	1	2	2	1	1	１１	２１
児童数	４６	４１	３８	４４	５３	３４	3	２５９	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

「一人一人が意欲的に学び、主体的に考え、表現する児童の育成」（国語科）
～　児童の瞳輝く授業の創造をめざして～

２　研究主題設定の趣旨

本校は、平成14年度より３か年「学力向上フロンティア事業」（文部科学省）、２か年「京都夢・未来校」（京都府教育委員会）、３か年「教育実践推進校」（野田川町教育委員会）の指定を受け、国語科におけるきめ細かな指導による基礎学力の充実・向上と個を生かす教育の推進を目指し研究を進めている。

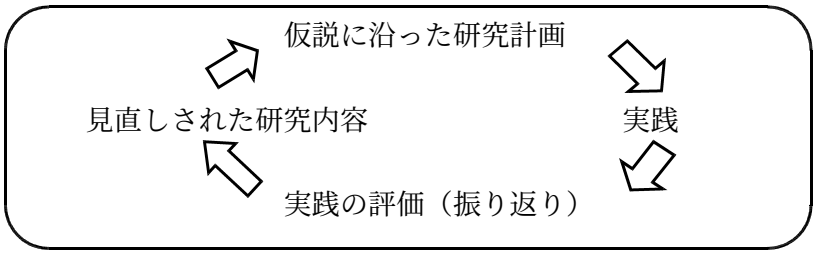
本校の児童は素直で明るく、活動的な面を持っているが、自分の考えや思いを自分の言葉で表現したり、伝えたりすることに弱さが見られる。

そこで、児童一人一人が意欲的に学び、主体的に考え、自らの思いや考えを豊かに表現する力を育てていくことが大切だと考えた。児童が、自ら課題に取り組み、追究し、「できた！わかった！楽しかった！またやりたい！」と実感できた時、学ぶ意欲や喜び・成就感等を味わうと考える。そのためには、一人一人のニーズに合った基礎・基本の徹底と学力充実・向上を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導や児童一人一人の興味・関心に基づく授業改善並びに多様な授業形態の工夫等、国語科を通して「生きる力」との関連を明らかにしながら研究を進めている。

Ⅲ　研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

１　研究推進体制の工夫

研究推進委員会で、研究方針の検討等を行い、研推２部会（「授業研究部」「実践活動部」）で、仮説に沿って実践に取り組んだ。月毎に定例の研究推進委員会、研推２部会を開催した。



２　研究の実際　「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」

(1)　国語科少人数授業の取組（３～６年）

ア　ねらい

(ｱ)　きめ細かな指導を行うことにより、基礎的・基本的な学習内容の徹底と定着を図る。
(ｲ)　児童理解を深め、個に応じた指導を行うことにより、効果的な学習指導の工夫を図る。
(ｳ)　個のニーズに合った学習集団を編成することで、学習意欲の向上を図る。
(ｴ)　多様な学習スタイルを経験させることで、主体的に学習できる児童の育成を図る。

イ　学習集団編成について

(ｱ)　習熟の程度に応じた学習グループ
(ｲ)　課題別学習グループ
(ｳ)　均等学習グループ
(ｴ)　単元によって上記学習グループを効果的に組み合わせた学習グループ

(2)　児童の実態を踏まえた、授業形態や指導過程の工夫の実践例

指導過程の中で、実態に即した指導と対応・指導体制の一層の改善を図り、習熟の程度に応じた授業形態を基本にしながら、課題別学習等柔軟な指導と対応の展開を図った。

ア　課題別学習グループにおける少人数指導

(ｱ)　「読む」の学習の後に、興味・関心や学習スタイルに応じた学習グループの編成をし、一人一人が主体的に学習活動に取り組めるようにコース設定をした。

(ｲ)　課題別学習では、個のニーズに合わせた充分な資料等の準備を行った。

児童の興味・関心に基づいた課題別学習における授業形態

第4学年　「体を守る仕組み」・・・体の仕組みについて調べたことをもとに説明文を書きその後のまとめる活動として課題別学習を行った。
「絵本」コース、「新聞」コース

「ごんぎつね」・・・教材文の読み取りと並行しながら課題別学習を行った。
「俳句ストーリ」コース、「読書」コース、「げき」コース

第5学年　「言葉の研究レポート」・・・「四文字熟語」「ことわざ」「慣用句」「方言」「カタカナ語」「流行語」

第6学年　「ガイドブック」を作ろう・・・「総合的な学習の時間」にフィールドワークした場所ごとに、課題別授業を設定した。
「地蔵山」コース、「宝泉寺」コース
「記念碑」コース

イ　習熟の程度に応じた少人数指導

(ｱ)　主要単元では、基礎・基本を徹底させるために、事前テストを兼ねたアンケートを実施し、その結果をもとに、自己選択でグループ編成をした。

(ｲ)　事前アンケートは、物語教材では、「文章から人物の気持ちや場面の様子を想像できるか」「考えたことを発表できるか」というこれまでの学習の振り返りと、実際に文章から想像して書くことに取り組ませるレディネステストを行い、コース選択をさせた。

(ｳ)　説明的文章では、旧教科書の教材文を使い、キーワード・キーセンテンス見付け、要点まとめ・文章構造図等のレディネステストを実施してから、コース選択をさせた。そして、個の課題やニーズに合わせた指導展開や教具の工夫を行った。

(ｴ)　説明的文章の読解や要点のまとめ等を自力でできる児童については、「国語学びの手引き」を使って一人学びをしながら学習し、その後発展的な学習へと進めた。

(ｵ)　言語指導事項を重点的に扱う教材（「言葉の広場」等）では、自己選択でコース決定をし、１学期を通して共通のコースとした。課題の大きい児童を対象としたコースでは、教科書の内容に時間をかけて指導し、一定の力のある児童を対象としたコースでは、漢字クイズや短文作りなどへ発展させて取り組んだ。

(ｶ)　「書く」教材では、作文の苦手な児童に対しては、一人一人に話をさせながら、文章化させるといった個への指導・支援を充実させることで作文に取り組ませた。

習熟の程度に応じた授業形態

＜ 1学級2コース設定の例＞

第4学年　「一つの花」

「コスモス」コース・・・叙述に即して、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読み取ることに重点を置くコース。

「願い」コース　・・・「一人学び」による書き込みを取り入れ、叙述に即して読み取ったことをもとに、自分の考えや思いを出し合いながら「読み」を深めるコース。

＜発展的な学習を含む3コース設定の実践例＞

第6学年　「砂漠に挑む」

「サハラ」コース（補充）　・・・文章の読解に大きな課題を残している児童を対象としたコース。文章の理解や要点をまとめることを重視した授業を進めた。

「ナイル」コース（基礎）　・・・学びの手引きを使用し、要点まとめがある程度できる児童対象。読み取りの後、自分の考えを交流し、「砂漠新聞」にまとめる活動を取り入れた。

「オアシス」コース（発展）・・・要点のとらえや、段落相互の関係把握等が自力でできる児童対象。学びの手引きをもとに教材文を学習後、調べる学習を行い意見文にまとめた。

第5学年　「海にねむる未来」

「海の博士」コース（補充）・・・要点まとめや、自分の考えを書くことが苦手な児童を対象としたコース。段落毎にキーワードを押さえながら、要点まとめに取り組み、自分の考えも書けるようにした。

「海の宝」コース　・・・自力でほぼ内容の読み取りができる児童を対象としたコース。「学びの手引き」を自力で読み取りそれをもとに、考えを出し合いながら、自分の考えを深めて書く。
（基礎）

「未来」コース　・・・学びの手引きを使用し、自力で教材文を読み、読み取ったことをもとに考えを深め合う。その後、考えをさらに深めるために、発展教材を読み、考えを交流した。
（発展）

第5学年　「一年が一秒をこわす」「ホタルのすむ水辺」

「ホタル」コース　・・・要点まとめや文章構成を丁寧に押さえながら、文章を正確に読み取り、それに対する自分の考えを持つ。その後、意見文や新聞を書く。
（補充）

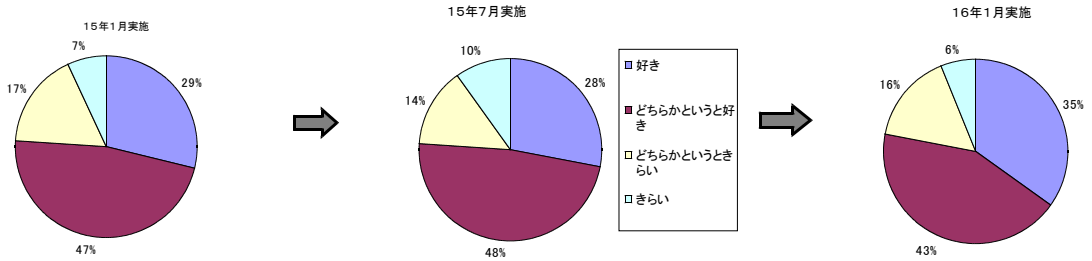
「水辺」コース　・・・教材文を正確に読み取るとともに、「身近な環境」に関心を持ち、自分の考えを持つ。その後、自分の課題を決め、文章構成を考えて意見文を書く。
（基礎）

「地球」コース　・・・「国語学びの手引き」を活用し、教材文を読み取り、文章構成をとらえる。その後、発展教材を２教材自力で読み取り、「身近な環境」や「地球の環境」について課題を持ち、意見文に書く。
（発展）

３　研究の成果と課題

(1)　成果

ア　少人数のグループで学習するために、ほとんどの児童が自分の意見や考えが言えるようになったと振り返っていた。授業の中で発言できるということは、意欲的な学習につながる大きな力ではないかと考える。



イ　学習に集中できるようになり、「話す」「聞く」「考える」「読む」等、学習内容によっての切り替えが少しずつできるようになってきた。

ウ　一人一人に目が行き届き、理解が難しい児童への対応など、きめ細かな指導ができた。また、個の課題も把握しやすく、授業の中で個を生かす展開の工夫ができた。

エ　習熟の程度に応じたグループ編成をすることで、個のニーズに合った教具や展開を考えることができ、また、発展的な学習や補充的な学習を組むことで意欲的な学習につなげることができた。

オ　評価個人ファイルを作成することで、日常の学習活動の評価を学期末評価につなげることができた。

カ　担当者で教材研究を行うことにより、コース毎の指導内容が明確になり、指導の充実が図れた。

キ　「国語便り」で、少人数授業の取組内容を保護者や地域に知らせることができた。

(2)　課題

ア　「伝え合う」を意識した授業づくりをすることで、「話す・聞く」力を付け、考えを深め合う学習（練り合い学習）につなげていく必要がある。

イ　指導計画の作成や教材研究のための打ち合わせ時間を確保し、指導のさらなる充実を図る。

ウ　評価規準表・評価チェック表の効果的な活用を図る。

エ　保護者への啓発活動をさらに進める。

４　研究成果の普及の方策

(1)　研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

○　平成15年８月18日　京都府小学校教育課程研究大会の全体会及び国語分科会で研究内容を報告　　場所　京都府総合教育センター北部研修所

○　平成15年８月19日　与謝地区学力向上推進協議会第２回小学校・中学校部会で研究内容を報告　　場所　京都府宮津総合庁舎

○　平成15年10月24日　「国語科教育研究発表会」全学級公開授業、実践報告　　場所　野田川町立市場小学校

(2)　研究成果普及のためのHPの作成、パンフレット作成等及び今後の予定

○　市場小学校HPを作成し、国語科教育の研究内容を公開 。（平成15年７月）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　□T・Tによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　□算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

・　各単元や教材によって、多様な学習集団を編成している。
・　個の課題やニーズに合わせた指導ができるよう、展開や教具の工夫を行っている。